乳児の『たね』は生活の中に

濵口　敦子

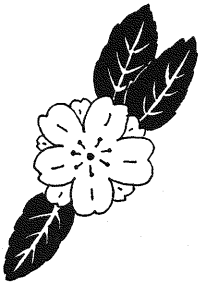
保育園で乳児と毎日の生活を共にする私にとって、子どもの中に見られる『新芽』との出会いは日々あふれるほどに満ちており、仕事とはいえ贅沢な毎日を過ごしています。昨日までネンネゴロゴロだった子が、大好きなおもちゃを手にしようと、ぐっと手を伸ばして身体をひねった瞬間に寝返りが成功したときや、ずり這いでゆっくりゆっくりと進んでいた子が、背中や腕に力を入れてしっかりと高這いし始めたときの光景は、たねが膨らみはじける瞬間に出会ったかのような新鮮な喜びを沸かせてくれます。

さて、乳児の保育においては、この『新芽』の

発見やその後の対応がいかに丁寧に扱われているかということが鍵になってきます。「できた！」ということに対して、子ども自身は無意識なことも多いので、そのときは大人側からのアクションでその子の行為を言葉に置き換え、その子自身にも「できた」ことの素晴らしさを伝えていくようにしています。子どもは、大人のあたたかな励ましや嬉しそうなまなざし、感心の言葉によって自分の行為に自信をもてるようになるからです。そして、行為の最中は子どもの集中力を削いだりその子の世界を壊したりしないように、そっと見守る姿勢も必要ですが、その子に「やったー、できた！」「うれしい！」という気持ちが芽生えたときには、やはりその子の傍らで喜びを共有したいものです。また、大人が子どもの遊びや行為に対する見通しをもち過ぎると、逆にすぐ次の段階へ子どもを誘導してしまう可能性もあります。しかし乳児保育には、次から次へと子どもが急がされる構図は合いません。ですから、まずは大人もゆったりとした姿勢で子どもが達成できた事柄自体に着眼し、行為の様子やその子の気持ちを代弁していき、子ども自身が『たねから出た芽』とじっくり向き合い、満足感を味わえるようなゆとりをもたせてあげたいと思います。

ところで、先日私の勤める保育園で『こどものくらし展』という行事が催されました。毎年行われている取り組みで、幼児クラスでは園生活で体験したことを中心に表現した絵画や造形作品を披露し、乳児クラスでは子ども一人ひとりの遊びや生活の様子を写真に撮り、コメントと合わせて子どもの成長をお伝えする機会としています。さらに、乳児クラスでは毎年テーマを決めて、遊びや

遊具、日々保育の中で大切にしている事柄などを特集し、並行して展示しています。テーマについての学びを父母の方々と保育者とが共有することでよりよい子どもの成長をサポートしていけるように、という願いが込められた取り組みです。今年は『身体の育ちと遊び』と題し、身体の成長に伴ってできるようになる遊びを分類し、更にそれらの遊びを繰り返し積み重ねていくことによって助けられる身体の育ち（乳児における身体の育ちと遊びの関係性）について写真や解説などを用いてお伝えしました。



展示には、子どもたちの実際に行われた遊びや生活の写真が使われている為、父母の方々も我が子や仲間の姿を見つけて喜びながら和やかにご覧になっていました。そして、何より展示内容に心を傾け感心して下さる方が多かったことに、私たち保育者一同も励まされた思いです。例えば、生まれた赤ちゃんが上手に歩けるようになるまでにはネンネ・寝返り・おすわり・つたい歩きなどの一連のプロセスがあるわけですが、それら一つひとつの段階が丁寧に積み重ねられていくからこそバランスのよい歩行が成り立つということをお伝えしたところ、

「うちの子も、この頃やっと上手に歩けるようになってきましたけれど、これまでにも随分沢山のことを身につけてきたのですね。すごいことですよね」

と、あらためて子どもの成長を喜んで下さる姿が見られました。また、『ハイハイの遊び』『押す・引く』『またぐ』『バランスをとる』など、動作ごとに遊びの種類を分類してその遊びがどのような身体の育ちを導いていくかということを解説した点にも様々な感想が返ってきました。例えば、『ハイハイの遊び』では、お尻を高く上げたライオン歩きやトンネルくぐり、傾斜のゆるいすべり台登りなど、同じハイハイであっても色々な遊び方があり、成長の段階によって様々な遊具との組み合わせでハイハイのバリエーションも豊かに展開していけることを写真で示した点については、

「子どもたちが能動的に遊んでいるのがよくわかりますね」

と感心されていました。

また両手両足を使って交互に身体を揺らしながら移動するハイハイは、バランスのよい身体の育ちを助け、腕や足の力をつけるとともに背筋や腹筋の力も養われる大切な運動だとお伝えすると、

「ひと言で身体を動かすといっても身体の使い方は色々あるのですね。ハイハイは、歩けるようになるまでの一時的な運動としてあるのかと思いましたが、遊びの中で長くかかわっていくものだったのですね」

と、それぞれが思い深く感想を述べてくださいました。子どもたちの中に育っていく『たね』の存在を皆で見守り、大切にしていかれるこの環境を幸せに感じた瞬間でした。そして、子どもをとりまく大人たちの配慮によって、その子自身が、自分の中に芽生えていく新しい世界を満喫できる環境を作り続けていきたいと思いました。

（かしのき保育園）